Monthly Report

SENDAI UNIV. PUBLIC RELATIONS

Vol.195 / 2022 .JUL (月1回発行)

セベツェアリーナ嘱託研究員が介護予防教室でチ アダンスを行いました



セベツェアリーナ嘱託研究員の指導のもと、楽しく汗を流した参加者

〈目 次〉

・セベツェアリーナ嘱託研究員が介護予防教 室でチアダンスを行いました	1
・アスリート必見!アメリカの大学ってどんなとこ?/留学報告	2
・ハワイ州立大学から留学生が短期研修で本 学学生と交流しました	3
・バドミントン部の齊藤梓(スポーツ栄養1年)が山形県国体予選で優勝 ・東北ラウンド進出を決める/女子バレーボール部	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.51	5

7月5日(火)仙台大学あすと長町サテライトオフィス(仙台市・ゼビオアリーナ)でセベツェアリーナ嘱託研究員が介護予防教室の講師としてチアダンスを行いました。

この取り組みは郡山地域包括センター(仙台市太白区)が主催し、高齢者の健康づくり、フレイル予防、社会参加への支援を目的とした介護予防教室の一環で、今回の「シニアチア」はチアダンスをシニアでもやりやすく、楽しくできるように新しくプログラムされました。

初回は18名が参加し、オープニングセレモニーでは髙橋仁学長が「最近ではシニアのチアダンスも広がりを見せており、参加して頂いた皆さんもぜひ最後まで楽しんで欲しい」と挨拶しました。

運動時は、和やかな雰囲気の中、ストレッチやチアダンスを行い、心身共にリフレッシュした様子で、終了後は参加者からアリーナ嘱託研究員に「楽しかった」、「また次も楽しみにしています」などの声を掛けられ、終始笑顔が溢れる教室となりました。



ダンスの前に準備運動を行う様子



オープニングセレモニーで挨拶を行った髙橋学長

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する 他、報道機関にも旬な話題を 提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等 がありましたら広報課までご 一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



アスリート必見!アメリカの大学ってどんなとこ?/留学報告

仙台大学トレーニングセンターのアシスタント・ストレングス&コンディショニング(以下S&C)コーチの星谷 勇佑です。現在、本学が独自に設置した専門指導者の育成制度の一環として、アメリカ合衆国にあるノースダコ タ州立大学(以下NDSU)でS&C研修に参加しています。NDSUは八村塁選手が在籍していた大学と同じNCAAディビジョンIに所属しており、男女合わせて14のスポーツチームがあります。NFL、MLB、NBA に数々の選手を輩出した実績を持つ大学です。中でも、アメリカンフットボール部は7度全米一位(FCSディビジョン)に輝き、トランプ前大統領にホワイトハウスへ招待されハンバーガーを振る舞われた史上2校目になったことで有名です。

私は本学の卒業生で、学生時代はアメリカンフットボールに打ち込んできましたが、ここまでの研修を通してアメリカの学生アスリートと関わる中で、日米の違いを様々な面で感じています。そこで、今回はアメリカの大学スポーツをとりまく環境を、主に施設、栄養、学業の3つの視点にフォーカスして紹介したいと思います。

施設

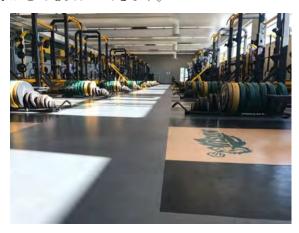
NDSUには26台のパワーラックと全フロアドロップ可能(画像1)、ラットプルマシン12台、さらにウェイトトレーニングエリアの隣には50ヤードの人工芝のエリアがあります。ラックが台数だけでも仙台大学の2倍以上の数です。充実した環境によって、より多くの選択肢の中からベストなトレーニングプログラムを組むことが可能になり、トータルコーディネートされたトレーニング指導を学生アスリートは受けることができます。

栄養

ウェイトルームの入り口にはNutrition Station (画像2)と言って軽食を摂ることができるスペースがあります。 そこには、プロテインやバナナ、シリアル、ヨーグルトなど他にも多くの軽食が用意されています。トレーニング前後にそこで栄養補給を済ませることが出来るのでトレーニング効果を最大限に引き上げることができます。 この環境から、どれほどアスリートにとって栄養補給が重要視されているのか感じ取れますね!

学業面

NCAAでは、学業成績や練習時間などに関する厳しい規則が設けられており、規程以上の学業成績を修められなかった選手は試合への出場資格を失ってしまいます。しかし、練習時間も制限されているので学生は勉強に充てられる時間もしっかり確保できます。また、私の関わっている学生は卒業後のキャリアを見据えて病院でインターンシップをしています。とても合理的なシステムですね!私が学生の頃はとにかく可能な限り練習に時間を費やしていましたが、アメリカトップレベルの学生アスリートの生活を見ると"練習時間=競技レベル"では無い事がとても伝わってきます。



1. ウェイトルーム



2. Nutrition Station

今回、紹介したアメリカの大学ならではのシステムは、日本の学生スポーツにも応用できるものだと考えます し、実際、本学でもトレーニングや栄養面において同様の活動が行われています。

今後も情報発信をしていきますので、特に学生アスリートの皆さんには、是非とも今後の活動に生かしてもられれば嬉しいです!



ハワイ州立大学から留学生が短期研修で本学学生と交流しました

6月27日(月)~7月1日(金)に、ハワイ州立大学の4年生1名が本学で短期研修を行いました。

今回の研修は、共同研究(脳震盪に関する調査研究)を通した学生交流で、学生選手における脳震盪に関する講義を受講したほか、アスレティックトレーニングルームなどの施設見学やAT部の学生との交流などを行いました。

また、仙台大学附属明成高校のメモリアルホールで「仙台フィルハーモニー」のコンサート鑑賞や日本文化体験として、「日本三景松島」を訪問しました。松島の見学では、AT部の学生と中国からの留学生も同行し、貴重な国際交流の機会となりました。

お忙しい中、特別講義をしてくださった先生方、ありがとうございました。 <国際交流センター>



















バドミントン部の齊藤梓 (スポーツ栄養1年) が山形県国体予選で優勝

7月に入り、バドミントン競技では各都道府県で国体予選が開催されており、本学の男女のエースがそれぞれの故郷にて上位進出を果たしました。

山形県では、齋藤梓(スポーツ栄養1年)が成年女子シングルスにて優勝し、同ダブルスにおいても準優勝しました。齋藤はシングルスの優勝にて国体メンバーに選出され、8月末に行われる東北ブロック予選(通称・ミニ国体)に出場します。同時に行われる東北総合バドミントン選手権大会の山形県代表にも選出されました。

青森県では、成田行磯(体育・4年)が成年男子ダブルスで、二年連続の準優勝となりました。ダブルスは優勝しないと国体メンバーには選ばれないことから残念ながらメンバー選出は逃してしまいました。



東北ラウンド進出を決める/女子バレーボール部

女子バレーボール部が7月17日(日)に宮城県・多賀城市総合体育館で開催された2022年度天皇杯・皇后杯宮城県ラウンドで優勝しました。

結果は以下の通り

○準決勝

仙台大学 2 (25 - 12 、 25 - 15) 0 聖和短期大学

○決勝

仙台大学 2 (25 - 18 、25 - 11) 0 常盤木学園高等学校



これにより、9月10日(土)~11日(日)に福島県で開催される天皇杯・皇后杯東北ブロックラウンドに宮城県代表として出場します。

応援よろしくお願いします。

<女子バレーボール部>



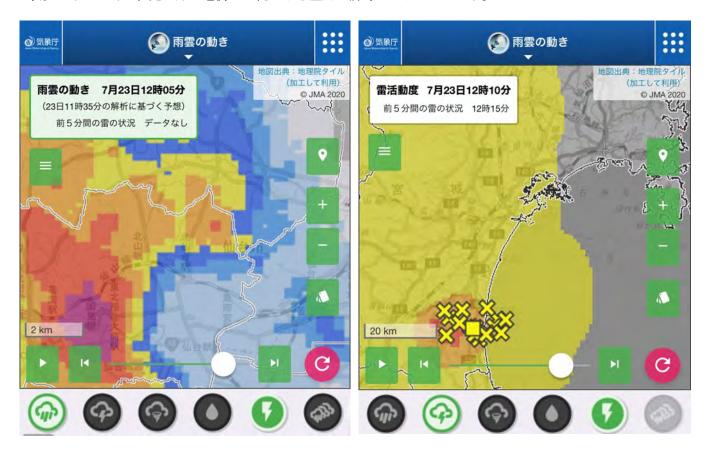


「高校スポーツの安全を守る」Vol.51

助手 髙野 順平

7月中旬に全国高校サッカー選手権大会の宮城県1次予選が行われ、仙台大学附属明成高校男子サッカー部の試合に帯同してきました。本来この時期は、梅雨の終わりの晴れ間や梅雨が明けて急に気温が上がったりと、熱中症のリスクが高い時期ですが、今年は梅雨が早く開けたにも関わらず、その後も雨が続き比較的涼しい日が多かったです。試合は2日間あり、どちらもそこまで気温は高くなかったのですが、1日目は大雨の中での試合となりました。熱中症に関しては、毎年テレビや新聞でも話題になるので色々対策は取られていると思いますが、スポーツ中の安全に関してこの時期もう一つ気を付けないといけないのが、落雷ではないでしょうか。仙台は比較的落雷件数が少ないようで、あまりニュースなどで話題にならないかもしれないですが、7月に入って仙台でも激しい雷雨の日が数日あったと思います。

川平ATルームでも、事前に天気予報を確認して、雷の可能性がある日はあらかじめ顧問の先生に伝えたり、部活動中も気象庁のホームページやスマートフォンのアプリで状況の変化を随時確認して、部活を中断しないといけない状況になった時は、先生方と連携し生徒たちを屋内に誘導したりしています。





~仙台大学教職員の共通理解事項~

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命·目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、 社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

- ■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)
- ■3つのポリシー <u>①学部</u> <u>②大学院</u>

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

- ■朴沢学園中期経営計画
- ■事業計画